

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第3期三朝町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

鳥取県東伯郡三朝町

3 地域再生計画の区域

鳥取県東伯郡三朝町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は昭和35年の10,951人をピークに減少し、住民基本台帳に基づく令和3年は6,141人まで減少している。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和42年には2,490人まで減少すると見込まれている。

年齢3区分別の人口推移をみると、年少人口は昭和35年には3,317人だったものが令和3年には627人、老年人口は昭和35年には1,042人だったものが令和3年には2,549人となっており、少子高齢化が進んでいる。生産年齢についても昭和35年には6,592人だったものが令和3年には2,965人となっている。

自然動態をみると、出生数は昭和59年の114人をピークに減少し、令和3年には24人となっている。その一方で、死亡数は令和3年には136人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲112人（自然減）となっている。

社会動態をみると、平成10年には転入者（298人）が転出者（275人）を上回る社会増（23人）であった。しかし、町内の事業所の減少や町外の住宅環境の整備等により、市外への転出者が増加し、令和3年には▲33人の社会減となっている。

今後も人口減少や少子高齢化が進行し続けると、これからの産業振興や地域づくりにおいて、民間事業所や農家戸数の減少等の課題が生じ、町民の暮らしに暗い影を落としていくと考えられる。

このような状況を踏まえ、本町が持つ魅力を活かし、本町でしか実現すること

ができない地方創生を進めるためには、時代を取り巻く環境の変化を敏感に捉えながら、さまざまな課題の解決に向け、引き続き積極的な取組を実践していく必要がある。

本町の明るい未来を開くため、町民と地域、行政がともに考え、汗をかき、暮らしやすい新しい町づくりを進め、人口の自然減・社会減等の課題に対応しながら、みさきスタイルによる地方創生を実現するため、本町の目指すべき将来像に「笑顔と元気があふれ 輝くまち」を掲げ、各種計画の推進に取組んでいく。

これらを取組むに当たっては、以下の5つの事項を本計画期間における基本目標に掲げ目標の達成を図る。

- ・基本目標1 感性と自立心を育む町
- ・基本目標2 支えあいにつながる町
- ・基本目標3 いのちと健康を育む町
- ・基本目標4 豊かな資源を活かす町
- ・基本目標5 笑顔で元気に暮らせる町

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和11年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	小6⇒中1進学時の不登校率	R8年度調査予定	現時点数値を測定後設定	基本目標1
	園小・小中の連携会議	R8年度調査予定	5回	
	小中学校標準学力調査の5教科正答率	R8年度調査予定	全国平均以上	
	ネットワーク推奨帯域を満たす学校の割合	R8年度調査予定	100%	
	高等教育機関からの講師	R8年度調査予定	複数回	

	招へい	査予定		
	ボランティア活動参加者	40人	50人	
	総合芸術祭の開催	R8年度調 査予定	1回	
	図書館貸出冊数	77,487冊	91,000冊	
イ	消防団員数	264人	270人	基本目標2
	管理不全家屋数	106戸	90戸	
	空き家利活用件数	7件	15件	
	空き家バンク登録件数	14件	30件	
	交通系IC決済利用率	R8年度調 査予定	85%	
ウ	園の満足度アンケート	R8年度調 査予定	100%	基本目標3
	子育てポータルサイトアクセス数	2,505件/ 月平均	4,000件/ 月平均	
	合計特殊出生率	1.04%	1.64%	
	健診受診率(1歳半・3歳)	100%	100%	
	健診受診率(国民保険加入者)	42.4%	60%	
	平均余命ー平均自立期間	男性 1.7 歳 女性3.1歳	男性 1.6 歳 女性3.4歳	
	健康づくり講演会の開催	R8年度調 査予定	1回	
	介護保険認定率	19.9%	20%	
	介護ボランティア活動者数	14名	20名	
	三朝温泉活用健康プロジ	300名	600名	

	エクト 参加者数(健康アプリ利用者数)			
	健康アプリ満足度	R8年度調査予定	85%	
	健康になった感じる人の割合 (健康アプリ利用者)	R8年度調査予定	85%	
エ	農業産出額	73千万円	74千万円	基本目標 4
	農林業経営体数	383経営体	350経営体	
	森林整備面積	100ha	確認中	
	事業承継支援数	2件	8件	
	宿泊施設における売上高	5,276,345千円	5,335,000千円	
	三朝温泉への観光客数	498,406人	574,000人	
	三朝温泉への外国人宿泊者数	14,450人	24,000人	
	創業・起業件数	1件	13件	
	三徳山入込客数	124,067人	167,200人	
	日本遺産三徳山三朝温泉を守る会 LINE登録者数	515人	700人	
	ふるさと応援寄付金額	133,103千円	300,000千円	
ケーブルテレビ加入者数	2,102件	2,200件		
オ	SNSフォロワー数	2,340件	4,000件	基本目標 5
	空き家バンク登録件数	14件	30件	
	スマホ教室開催数	R8年度調査予定	15回	

	まちづくり交付金活用件数	5件	10件	
	多世代交流型イベント開催件数	R8年度調査予定	6件	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

三朝町まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 感性と自立心を育む町づくり事業
- イ 支えあいにつながる町づくり事業
- ウ いのちと健康を育む町づくり事業
- エ 豊かな資源を活かす町づくり事業
- オ 笑顔で元気に暮らせる町づくり事業

② 事業の内容

ア 感性と自立心を育む町づくり事業

「まち」の創生、「ひと」の創生、「しごと」を創生するために、最も重要になるのは「ひと」の創生です。三朝町では、三朝スタイルの地方創生を進めていき、第11次三朝町総合計画で描く未来を実現させるために人材育成に関する取り組みを加速させていきます。

【具体的な事業】

- 誰一人取り残さないきめ細やかな教育対応の充実を図る
- 教育施設の拠点集中を生かした園小中における教育連携を深め、確かな学力の確保につなげる
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る

○最適な教育ネットワーク環境を持続し、教育現場におけるデジタル技術を活用した学びを推進する 等

基本事業1-2 ふるさとを愛する人づくり

◎温かな笑顔でつながる“みささ”の中で、地域の若者がふるさとの良さを再認識し、「ふるさと三朝」の未来を共に考え、行動していく。

【具体的な事業】

○青少年の健全育成に向けて、新たな体制づくりを検討するとともに、地域における活動の場として、体験交流活動やボランティア活動に参画できる仕組みを創設

○家庭、地域、行政が一体となり、老若男女が楽しみながら参加できる学びの機会を創設

○家庭が本来の役割を果たし、親と子がともに成長していけるよう、家庭や地域における学習機会の充実化

○広報や啓発活動などを通じ、青少年の健全育成に関する情報提供を行うことによって、町ぐるみで青少年を支援していく取り組みを推進 等

基本事業1-3 自立と社会参加のすすめ

◎町民が自主的に学び続けることのできる環境を創り、防災、福祉、地域づくりへの活動に協働で取り組んでいける環境を創出する。

【具体的な事業】

○社会情勢の変化や地域の特性、町民ニーズを的確に捉えながら、町の特色を活かした新しい学びの場を創出

○学校、家庭、地域、民間団体、町内事業者と連携し、一緒になって教育する体制を構築

○学校教育と連携しながら、地域の歴史などをよく知る高齢者から学びを受けられる機会を創出 等

イ 支えあいにつながる町づくり事業

町民一人ひとりが互いに互いを支えあえる関係を築き上げ、防災・減災対策、地域での見守り活動、持続可能な公共交通サービスの構築などを実現させていき、すべての人が安全で安心して暮らせる「まち」を創

生します。

【施策の基本的方向】

基本事業2-1 みんなで創る、みささのつながり（安全・安心な生活）

◎防災体制の充実を推進するにあたり、近年は大規模化、頻発化の傾向にある自然災害に対応できるよう、家庭や地域で自主防災体制（自助・共助）を整備する

【具体的な事業】

○消防団員の適正な確保に向け、人口減少や少子高齢化等の影響を勘案しながら計画的に組織再編を行う

○消防団におけるデジタル技術の活用を進め、青年層や女性、町内事業所勤務者等の新たな協力者の発掘とあわせ、持続可能な組織体制を構築する

○防災に関する知識を身に付け、災害発生時に命を守るため行動がとれるよう防災学習の機会を確保する

○空き家の総数把握のため5年に一度の調査結果をデータベース化し、関係機関との情報共有を図る。等

基本事業2-2 未来につなげる公共交通

◎将来を見据えた持続可能な公共交通サービスの構築に向けていく

【具体的な事業】

○キャッシュレス決済を導入し、幅広い利用者に対応する公共交通を目指す

○利用者数、代替交通手段等の状況を総合的に判断し、関係機関との協議のうえ適切な運行ダイヤを確保する 等

ウ いのちと健康を育む町づくり事業

人生100年時代と言われる昨今、いつまでも元気に暮らすことができ、活躍できる体制を整備し、未来を担う子どもたちのために、すべての「ひと」が希望をもって出産、育児を実現できる「まち」をつくりまします。

【施策の基本的方向】

基本事業3-1 いのちを育て・守り・支える

◎子育て環境の充実と、地域で育った子どもたちが次代の町を支えることにつながる取り組みを進める

◎町民それぞれの疾病や介護などの状況に応じ、安心して適切な医療・介護サービスを受けられる体制の確立を目指します基本事業3-2 健康長寿のすすめ・共生社会を目指す

【具体的な事業】

○子どもを育てる保護者の不安や悩みに寄り添い、親子関係の安定と子どもの健やかな成長をサポートする。

○親子間の愛着形成を大切にした子育ての基盤づくりを応援、豊かな遊びと体験を通して生きる力を育てる保育・教育

○ライフステージ全体を通して、こどもを取り巻く様々な問題の解決に導く体制づくり

○人や地域のつながりにより、誰一人孤立させず、あたたかく見守る等

基本事業3-2 健康長寿のすすめ・共生社会を目指して

◎高齢者、障がい者の分け隔てなく、誰もが元気に自分らしく地域での生活がおくることができる「まち」を目指します

◎町の資源を最大限に活用した健康づくりを推進

【具体的な事業】

○健康寿命の延伸対策を重要視し、関係機関と連携しながら健康づくりを推進

○集いの場「サロン」の充実やラドン体操の継続、普及を図り、介護予防を推進

○三朝温泉病院、岡山大学などと連携し、新たな健康プログラムを推進

○健康アプリの利用を促し、デジタルヘルスの普及を図り、健康増進と介護予防の図る 等

エ 豊かな資源を活かす町づくり事業

町の主要産業である「観光業」、「商工業」、「農林業」の継続的な発展のため、時代のニーズを的確にとらえながら、「みさきブランド」

の確立に向けていきます。そして、既にある仕事とICT技術の連携を積極的にいき、魅力ある「しごと」創生を進めます。

【施策の基本的方向】

基本事業4-1 観光業・商工業・農林業の活性化

- ◎日本遺産を核とした観光資源、豊かな自然環境、魅力的な農産物、価値ある文化財を互いに連携させながらみささならではの魅力づくりを進める
- ◎日本遺産ブランドを最大限に活用した観光情報発信、新たな魅力の発掘を図る
- ◎新たな担い手確保対策を展開し、持続可能な農林業の実現を図る
- ◎森林資源を後世に残していくため、適切な活用と整備を進める

【具体的な事業】

- 既存の連携体制にとどめず、より広域的な連携を進めることで新たな観光振興を実施
- 「日本遺産を通じた地域活性化計画」に基づき、受入環境整備や高付加価値化への取組を推進する
- 新規創業・起業を促進するため関係機関と連携した支援体制を構築し、ニーズに対応した柔軟な支援を行う
- スマート農業へ向けた取組を推進するため、実証実験を行う団体等を支援 等

基本事業4-2 地域資源の活用に向けて

- ◎三徳山投入堂、ジンショなどの文化財をはじめ地域に伝わる伝統文化・文化財を掘り起こし、新たな付加価値を創造していき、町の魅力を拡充
- ◎入浴等施設整備を進め、町民をはじめ観光客に三朝温泉の入浴と健康づくりを連携した取組を提供する
- ◎遊休施設の運用に関する検討を進め、資源の活用につなげる
- ◎町内全域に整備された高速大容量通信が可能な光ファイバーの積極的な活用を促す

【具体的な事業】

- 遊休施設(旧校舎等)の利活用について、公募型の提案を受けるなど幅広い活用方法検討する
- 三朝町交流拠点施設の活用計画を策定
- 関係機関と連携し、「山護運動」や「ジンショ」などの伝統文化の保護活動の継続に向け、新たな人材発掘を行う 等

オ 笑顔で元気に暮らせる町づくり事業

人口減少、少子高齢化、過疎化の課題があるなかでも、課題解決に向かい、町民が力を合わせて楽しく持続可能な三朝の暮らしを創造することが必要です。幅広い世代で取り組む地域づくり、コミュニティの再生など、人と人のつながりを活かし、“みささスタイル”での「まち」創生を進めます。

【施策の基本的方向】

基本事業5-1 “みささらしい暮らし”を創る

- ◎人との出会い、交流を通じて豊かな三朝町での暮らしを実現します。そして、豊かな暮らしを町外へ向けて積極的に発信することにより、町を「知ってもらおう」、「来てもらおう」、「関わりを持ってもらう」、「住んでもらおう」へと関係性を段階的に上げていく。

【具体的な事業】

- 関係人口拡大を図るため、まずは町を知ってもらえるよう、町の情報発信を積極的に実施
- 移住定住の促進、空き家利活用の意識醸成等をミッションとした専門人材を配置し、積極的に取組を推進
- 国内外の交流都市との活動を継続実施し、文化交流を推進する
- デジタル社会の到来を踏まえ、住民の利便性向上及び地域社会の活性化につなげるためDX推進計画を策定 等

基本事業5-2 つながりを大切にする地域づくり

- ◎集落や地域における人のつながりを再生し、三朝の温かい暮らしを守っていく。

【具体的な事業】

- 地域協議会が行う活動を支援し、地域内外での多世代交流を促進

する

○地域づくり、担い手育成・確保、仕事マッチング、移住定住相談などをワンストップで受け付け、対応できるような拠点を整備

○町民が主体となって取り組み地域活性化に資する活動に交付金を支給等

※ なお、詳細は第3期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

20,000千円（令和8年度～令和11年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度2月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

令和8年4月1日から令和12年3月31日まで

6 計画期間

令和8年4月1日から令和12年3月31日まで